

2017 全日本 F3 第 10 戦 第 11 戦  
 鈴鹿サーキット  
 2017 年 6 月 24 日(土)

予選 観客: 10,400 人 天候: 晴れ後曇り

2017 年全日本 F3 選手権シリーズ第 10 戦、第 11 戦は、第 4 戦、第 5 戦と同じ舞台、鈴鹿サーキットで行われた。カローラ中京 Kuo トムスの 2 台は金曜日に行われた練習走行で宮田 莉朋がトップタイム、坪井 翔がセカンドタイムをマークしてその好調さアピールした。その好調さは予選でも発揮されて坪井(翔)が両レースのポールポジションを獲得。宮田(莉朋)が同じくセカンドポジションを確保してスタートを切ることとなった。

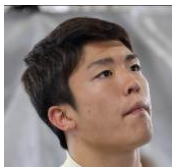


- 金曜の練習走行で両者の差は 100 分の 5 秒と僅差。3 番手以降のライバルとは 10 分の 25 差があった。
- 今回の予選は、30 分間のワンセッション。ベストタイムで第 10 戦、セカンドタイムで第 11 戦のスターティンググリッドを決した。
- セッションが開始後コースインして 3 周目に坪井(翔)が 1 分 53 秒 116 を記録してその時点でのトップタイムをマーク。同周回で宮田(莉朋)が 1 分 53 秒 606 で 2 番手につけた。その直後に赤旗が提示されてセッション中断。
- 5 分後に再開されたセッションで、タイムアップを目指して残り時間 10 分を切って各車がコースイン、タイヤのウォームアップ中に再び赤旗で中断。セッションは 3 分 30 秒延長されて再開。
- コースインしてホームストレッチを通過後ワンアタックで坪井(翔)が 1 分 52 秒台に突入、宮田(莉朋)が同じくそれに続いてタイム更新してチームは、1-2 でセッションを終え、セカンドタイムでも 1-2 となって両レースのフロントローを独占した。

Drivers	Car No.	Qualifying for 10	Qualifying for 11
坪井 翔	1	P1 1:52.746	P1 1:53.116
宮田 莉朋	36	P2 1:52.764	P2 1:53.606

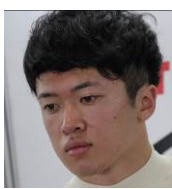
天候	晴れ後曇り/ドライ	
気温/路面温度	気温 27-27 度 C	路面: 40-45 度 C

坪井 翔 (1号車ドライバー)



「走り出しから調子が良くて、ようやくポールポジションを獲得することができました。セッションが始まって直ぐにまず一回タイムを出しに行ってそれが上手くゆき、赤旗後に再アタックをしようとしている時にまた赤旗が出されてしまったので、最後のアタックにどれだけタイヤのグリップが残っているか多少不安がありましたが、何とかベストタイムを出すことができました。シーズンも折り返しなので、これからできるだけ挽回したいです。まずは一勝ですね」

宮田 莉朋 (36号車ドライバー)



「前回の鈴鹿ラウンドでは予選でトラブルが発生してしまい、決勝を走ることができませんでした。それで金曜日の練習走行の走り出しで多少の不安がありましたけれど、走り出してしまえば、前回予選でストップするまでの感触、トップのセクタータイムを叩き出せた感触が直ぐに蘇ったので安心しました。チームに感謝します。コンディションが前回とは異なりますが、マシンのバランスは良く、金曜日はトップタイムを出せました。予選になって坪井選手に少し遅れましたがベストタイムを出した周はシケインで少しミスしてしまったのでそれが無ければポールをとれたかもしれません。でも、フロントローからのスタートなので勝利を目指して頑張りたいです。第 11 戦は雨になりそうなので経験が少ないウエットでどれだけできるか不安もあります。しかし、勝利を目指します」

山田 淳 (チーフエンジニア)



「今回に向けて特別なことをしてきたわけではなく、これまで蓄積してきたノウハウを投入した結果です。チームとして鈴鹿は常に速いという自負がありますから、ドライバーも頑張った結果ですね。セッションの途中に何かあるか分かりませんからまず早めに一発目のタイムを出し、その後もう一回アタックする予定でした。一回目の赤旗前にまずタイムを出すことができましたが、その後再度赤旗が出るとは予想外でした。それでも二人のドライバーが再びタイムを出してくれる自信はありました。予選終了まではいつもまずまずなので、問題は決勝です。良いスタートを切って勝ってほしいですね」

関谷正徳



「今シーズンで最高の予選。そして最高の気分です。チームの準備、そしてドライバーの頑張りが一体となって結果として表れた。ここまで厳しい状況の中で苦しい予選が続いていましたが、坪井(翔)が今季初のポールを獲得し、フロントローを独占できた。シリーズの折り返しで、ここから巻き返しをして行きたい。決勝は、今季初勝利を得たいですね」



2017 全日本 F3 第 10 戦 第 11 戦  
鈴鹿サーキット  
2017 年 6 月 24-25 日(土/日)

決勝

観客: 7,000 人 天候: 曇り/曇り後雨

カローラ中京 Kuo トムスにとって鈴鹿サーキットで行われた全日本 F3 選手権第 10、第 11 戦は今シーズン最高の結果を残すことができた。坪井 翔が両レースをポール to ウィンで 2 勝を記録。宮田 莉朋が 2 位、4 位でレースを終えている。



- 第 10 戦では、予選のグリッドを守って 2 台が 1-2 体制を序盤から築いて坪井(翔)が F3 参戦から 2 シーズン目で初優勝を記録。宮田(莉朋)は、3 戦連続の 2 位。
- 第 10 戦のレース終盤で宮田(莉朋)がチームメイト、トップの坪井(翔)に迫る展開を見せたが坪井(翔)は 0.9 秒差で首位を守った。
- 雨の予報が出ていた 25 日の午前中は、予報に反して曇り。しかし、コースの一部が濡れているハーフウェット状態だった。坪井(翔)はスタート直後から後続を引き離してトップをキープした。
- 宮田(莉朋)の偶数列グリッドは奇数列グリッドに比べて濡れている度合いが酷くスタートでホイールスピン量が多くなってしまって順位を下げてしまった。
- 坪井(翔)は序盤に築いた後続とのギャップを中盤から終盤でも広げて今季 2 勝目。ポイントランキングを 3 位にアップしてシリーズ後半戦へと折り返した。

Drivers	Car No.	Round 10/ Fastest Lap	Round 11/ Fastest Lap
坪井 翔	1	P1 1:53.974	P1 1:53.527
宮田 莉朋	37	P2 1:53.915	P4 1:53.562

天候	曇り/ドライ 曇り後雨/ハーフウェット	
気温/路面温度	気温:27-25/23-23 度C	路面:42-34/27-26度C



坪井 翔 (1号車ドライバー)

「やっと勝てました。スーパーGT の 300 クラスやスーパー耐久で先に勝っていて F3 だけ勝てていなかったのが随分時間がかかったという感じです。第 10 戦は苦手なスタートで少し出遅れてしまったのですが何とかトップをキープできました。終盤チームメイトの宮田選手に差を詰められてしまったのですが抜かれないという自信はありました。第 11 戦はスタートで雨は降って居なかったのですが、路面の一部が濡れていて難しいコンディションでした。課題だった終盤のペースダウンもなく 2 位を引き離して連勝出来ました。後半戦でもこの調子で頑張りたいと思います」

宮田 莉朋 (37号車ドライバー)

「私にとって初めての鈴鹿における決勝レースで勝つことはできませんでしたが 2 位で終わることができました。第 10 戦の終盤でチームメイトの坪井選手に迫ることができたのですが、抜くまでには至りませんでした。やはり予選で前に出ないとダメですね。そして第 11 戦ではグリッドがかなり濡れていたためスタートで二つ順位を落としてしまいました。途中で雨も降ってきてペースもあまり上がらずそのままゴールしました。この 2 戦のデータを分析して今後改善したいです。次戦富士はホームコースでもあり、8 月の誕生日の前に何とか 1 勝を記録したいと思っています」

山田 淳 (チーフエンジニア)

「今回、好調なここ鈴鹿で勝てるチャンスをきちんとふたつの勝利で終わってくれて良かったです。坪井(翔)が今回はスタートを無難に決めてくれて一度もトップの座を譲ることなく 2 勝。宮田(莉朋)は第 10 戦では 2 位フィニッシュができましたが、第 11 戦はイン側のグリッドがかなり濡れていてグリップせずに順位を落としてしまいました。この勝利でチームとしては勢いをつけて後半戦に臨めます。二人のドライバー達もワンステップアップできて次の段階に進めます。エンジン特製の違いで鈴鹿の後半はどうしてもライバルが速いのですが、前半で引き離して勝つことができました」

関谷正徳

「今季最高の結果で終わられました。特に坪井(翔)は初勝利と 2 勝目をマークして、彼も吹っ切れたのではないのでしょうか。彼だけではなくチームも細かな部分を詰めていった最高の状態に持って行ってくれた結果です。シーズン半ばで良い成績を出せて後半戦に勢いをつけたいですね。次戦の富士は、どうしてもライバルが強い第 3 セクターを他のセクターでどう補うかが課題ですね」

